

## 第4節 福岡市内の押型文土器について

菅 波 正 人（福岡市教育委員会）

### 貯蔵穴15出土土器（fig.160-161）

1は押型文土器で、小片で磨滅しているが、端部付近と判断される。内外面に3mm程度の細かい楕円文を施す。文様は横走施文である。内面の文様をみると、施文具の端部の刻みが山形になっていることが分かる。色調は淡黄褐色を呈する。胎土には1～2mm程度の石英、長石を含む。器壁の厚さは8～9mm程度である。文様の特征から稲荷山式に相当するものと考えられる。

### 福岡市域の縄文時代早期の遺跡（fig.162）

近年、福岡市域においては草創期から早期前半にかけての資料の増加とともに、それに続く、押型文土器期の資料も徐々に増加してきた。当該期の遺跡は本田浩一郎氏の集成によると、70余りという。この中には調査により遺構、遺物が確認されているもの以外に、石鏃、石槍などの遺物が表採されたのみのものも含まれる。市域においてこれらの遺跡は主に福岡平野、早良平野の縁辺の丘陵部で発見されており、平野内の沖積地での例は少ない。遺跡の分布を西から見ていくと、糸島半島の東から北東丘陵部、西山 飯盛山 叶岳 長垂山塊から北東に派生する丘陵部及び扇状地、早良平野の最奥部の扇状地、油山から北に派生する丘陵部などがあげられる。調査例の偏りにもよるが、東部では石器などの出土例はあるものの、土器や遺構の検出例は少ない。それでは各地域の遺跡について簡単に触れていく。

の地域では大原D遺跡、元岡・桑原遺跡群があげられる。大原D遺跡は柑子岳から派生する丘陵の北東端に立地する。草創期から早期の遺跡は標高約20～40mの埋没した段丘面を中心に発見された。第14、15地点では柏原遺跡同様の条痕文土器、刺突文土器などが出土し、竪穴住居跡、炉跡なども検出された。第16地点では稲荷山式、早水台式を始めとする押型文土器が出土し、炉跡なども検出された。草創期から早期にかけての様相が分かる数少ない遺跡の一つである。元岡・桑原遺跡は大原D遺跡群同様に埋没した段丘面に立地する遺跡で、草創期から早期にかけての様相を知る上で貴重な遺跡である。第3次調査では標高約13～18mの段丘面で、複数時期の包含層が確認された。そこからは草創期から早期前半の条痕文土器、刺突文土器、撚糸文土器が出土し、炉跡、炉穴などが検出された。それらの上層からは稲荷山式、早水台式、下菅生B式の押型文土器が出土し、炉跡も検出された。

の地域では広石遺跡、羽根戸原遺跡、城田遺跡、浦江遺跡などがある。広石遺跡では叶岳から派生する標高約30～60mの丘陵状に立地する。C地点では楕円文や山形文の押型文土器と共に、石鏃が多数出土し、落とし穴遺構と考えられる不整形土坑が45基検出された。遺跡周辺では古墳の墳丘やその下層から当該期の遺物の出土例も多い。城田遺跡、浦江遺跡は西山から派生する標高約40mの扇状地に立地する。明確な遺構は検出されていないが、下菅生B式から田村式の押型文土器が出土している。それ以前の資料としては浦江遺跡5次で撚糸文土器単純期と考えられる土器と貯蔵穴が検出されている。城田遺跡でも浦江遺跡同様の撚糸文土器が出土しており、押型文土器期以前の様相を知る上で貴重な資料と言える。

の地域では松木田遺跡、脇山A、B遺跡、広瀬遺跡などがある。松木田遺跡は早良平野が最も窄まる部分の室見川左岸の標高約40mの扇状地に立地する。撚糸文土器単純組成の土器が発見され、押型文土器以前の様相を知る上で重要な遺跡である。近年の調査では押型文土器の出土も見られ、早期の様相が注目される。脇山A、B遺跡では標高約60～90mの扇状地で、明確な遺構は検出されていないが、早水台式から田村式の押型文土器が出土している。周辺の栗尾B遺跡、谷口遺跡などでも同様の遺物が出土している。広瀬遺跡は標高約70～80mの室見川右岸に河岸段丘にあたる。ここでは田村

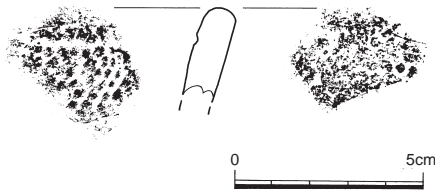


Fig. 160 SU15貯蔵穴出土押型文土器図（縮尺1/1）

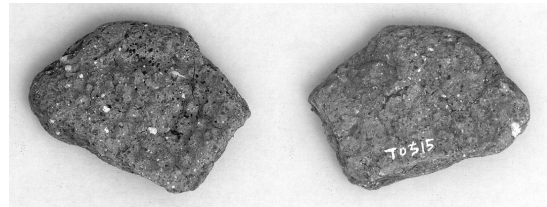


Fig. 161 押型文土器（左：内面、右：外面）

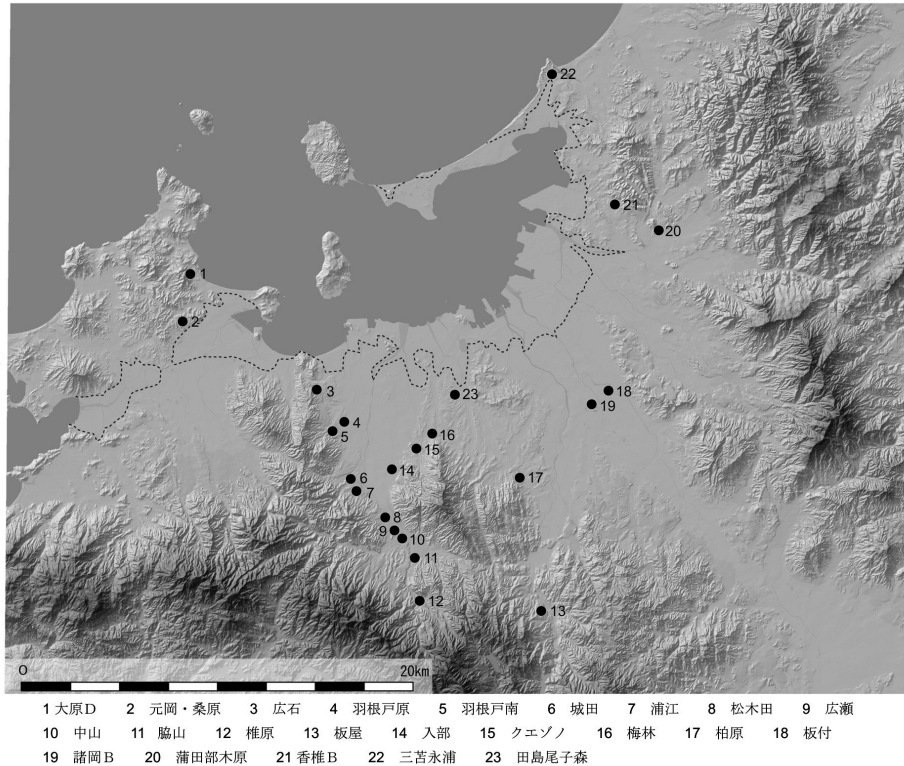


Fig. 162 福岡市域の主な縄文早期の遺跡

式の押型文土器に伴って、口縁外面に刺突を巡らせる撚糸文土器が出土している。早期後葉の様相を考える上で貴重な資料である。

の地域では柏原遺跡群、クエゾノ遺跡などがある。柏原遺跡群は油山から北東に延びる標高約40～80mの低丘陵と樋井川に開析による狭小な沖積地で数多くの遺跡が確認されている。柏原遺跡群は柏原E遺跡、F遺跡で出土した草創期から早期前半の条痕文土器、刺突文土器などがよく知られるが、押型文土器期では柏原A - 1、A - 2、E、F、k、M遺跡で遺構、遺物が確認されている。押型文土器は川原田式に始まる各時期のものが出土しており、E、F、k遺跡では多数の竪穴状遺構、炉跡などが検出されている。柏原遺跡群ではこのような遺跡が100～300mほどの間隔で分布していることから複時の回帰的行動による遺跡の形成が指摘されている。クエゾノ遺跡は油山から北西に延びる標高約40mの丘陵状に立地する。遺構は検出されていないが、田村式を主体に、下菅生B式の押型文土器が出土している。

これら以外で注目される遺跡として、板付遺跡では古諸岡川の低位段丘にあたる、基盤の八女粘土層の再堆積層上面で包含層を確認している。ここでは早水台式を主体とした押型文土器が出土している。周辺でも那珂君休遺跡、諸岡B遺跡などで押型文土器が出土しており、刻目突帯文土器以前の縄文時代の様相が不明確なこの地域において、埋没した低位段丘面に遺跡が存在することは重要な点である。